

大日本スクリーン製造株式会社

2012年3月期 第1四半期 決算説明会

2011年8月9日
専務取締役 CFO 領内 修

本日のアジェンダ

- 2012年3月期 第1四半期連結業績 結果と分析
- 事業環境
- 2012年3月期 連結業績予想

資料取り扱い上の注意

- 本資料および口頭にて提供する将来の当社業績見通しは、直近で知り得る情報をもとに作成したものであります。しかしながら、世界経済やエレクトロニクス業界の技術変化、半導体・FPDパネルの市況など、当社を取り巻く事業環境は急速に変化いたします。つきましては、今後当社の業績見通しが本資料と異なる可能性もございますので、ご了解願います。
- 本資料に記載しております数字につきましては、単位未満切捨てで処理しております。比率は百万円単位で計算した結果を四捨五入して処理しております。

1 Q 連結業績結果

2012年3月期 1Q 連結業績結果

(単位：億円)	2011年3月期				2012年3月期		
	実績				実績	前四半期比	前年同期比
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	伸率	伸率
売上高	514	589	662	783	645	-17.6%	25.5%
SE	327	365	495	554	482	-13.1%	47.2%
FE	82	92	61	90	51	-43.8%	-37.9%
MP	103	130	103	135	110	-18.5%	7.4%
印刷関連機器 (MT)	89	106	92	116	95	-17.7%	6.9%
プリント配線板関連機器 (PE)	13	23	11	19	14	-23.6%	10.7%
その他(外部売上のみ)	1	1	1	1	1	-20.7%	13.9%
営業利益	46	63	75	81	62	-23.9%	33.8%
SE	49	61	88	81	68	-15.6%	39.3%
FE	6	0	▲5	▲0	▲7	-	-
MP	▲9	1	▲8	2	2	-28.0%	-
その他および調整額	▲0	0	1	▲2	▲1	-	-
経常利益	46	63	74	80	60	-24.9%	31.3%
純利益	38	57	77	83	47	-43.3%	22.3%

SEは半導体機器事業、FEはFPD機器事業、MPはメディアアンドプレジジョンテクノロジー事業を示す。

2012年3月期 1Q 連結業績分析

売上高

実績 645億円 ・ 前四半期 783億円 （前四半期比：137億円減少）

（単位：億円）

セグメント	1Q 実績	前期4Q実績	差異	差異のポイント
SE	482	554	▲ 72	・ NAND堅調。DRAM低調。ロジック、ファンドリーも減少。
FE	51	90	▲ 39	・ G8は横ばい。中小型が減少。
MP	110	135	▲ 25	
MT	95	116	▲ 20	・ PODは増加、CTPは減少。
PE	14	19	▲ 4	・ 直接描画装置、検査装置がともに減少。

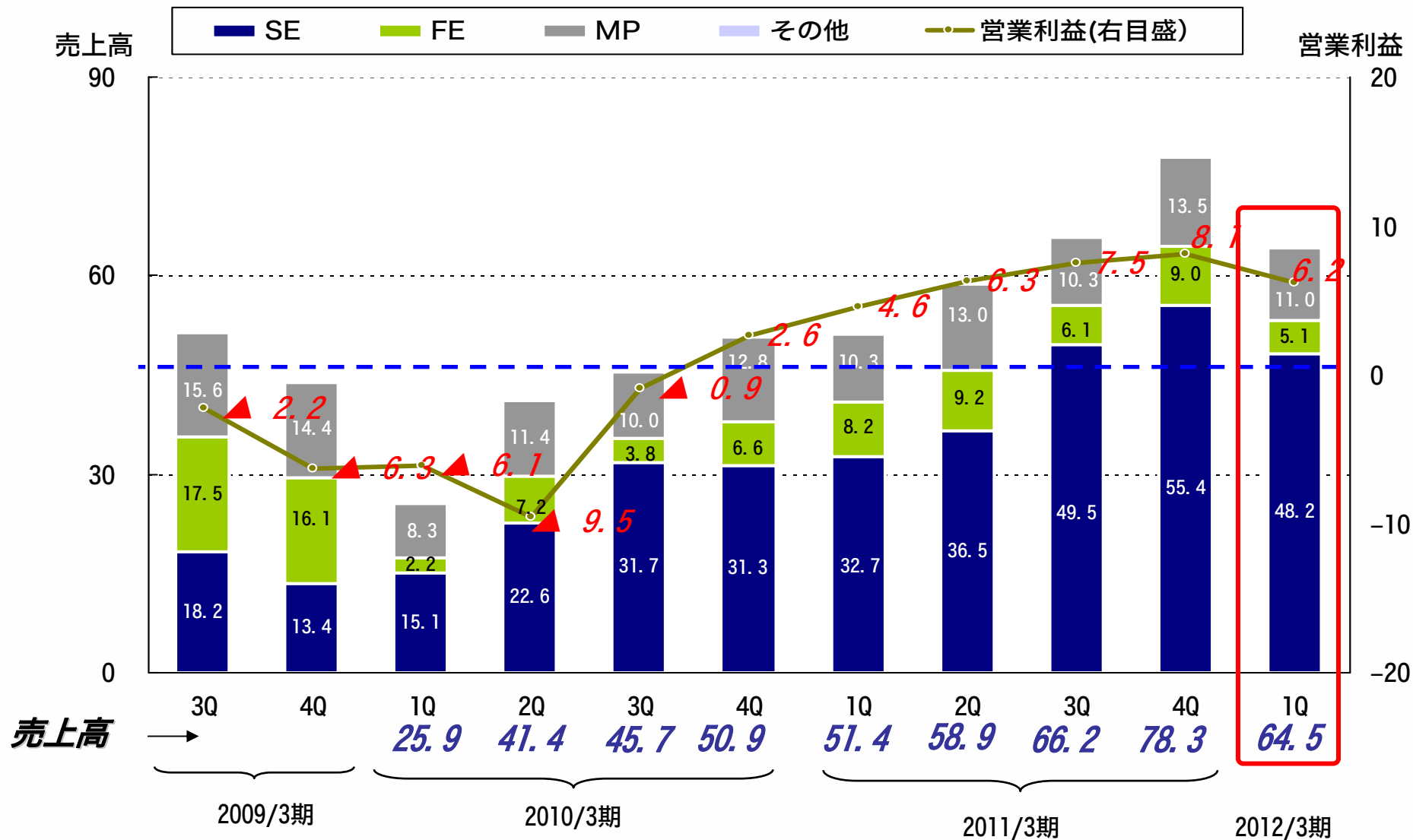
営業利益

実績 62億円 ・ 前四半期 81億円 （前四半期比：19億円減少）

（単位：億円）

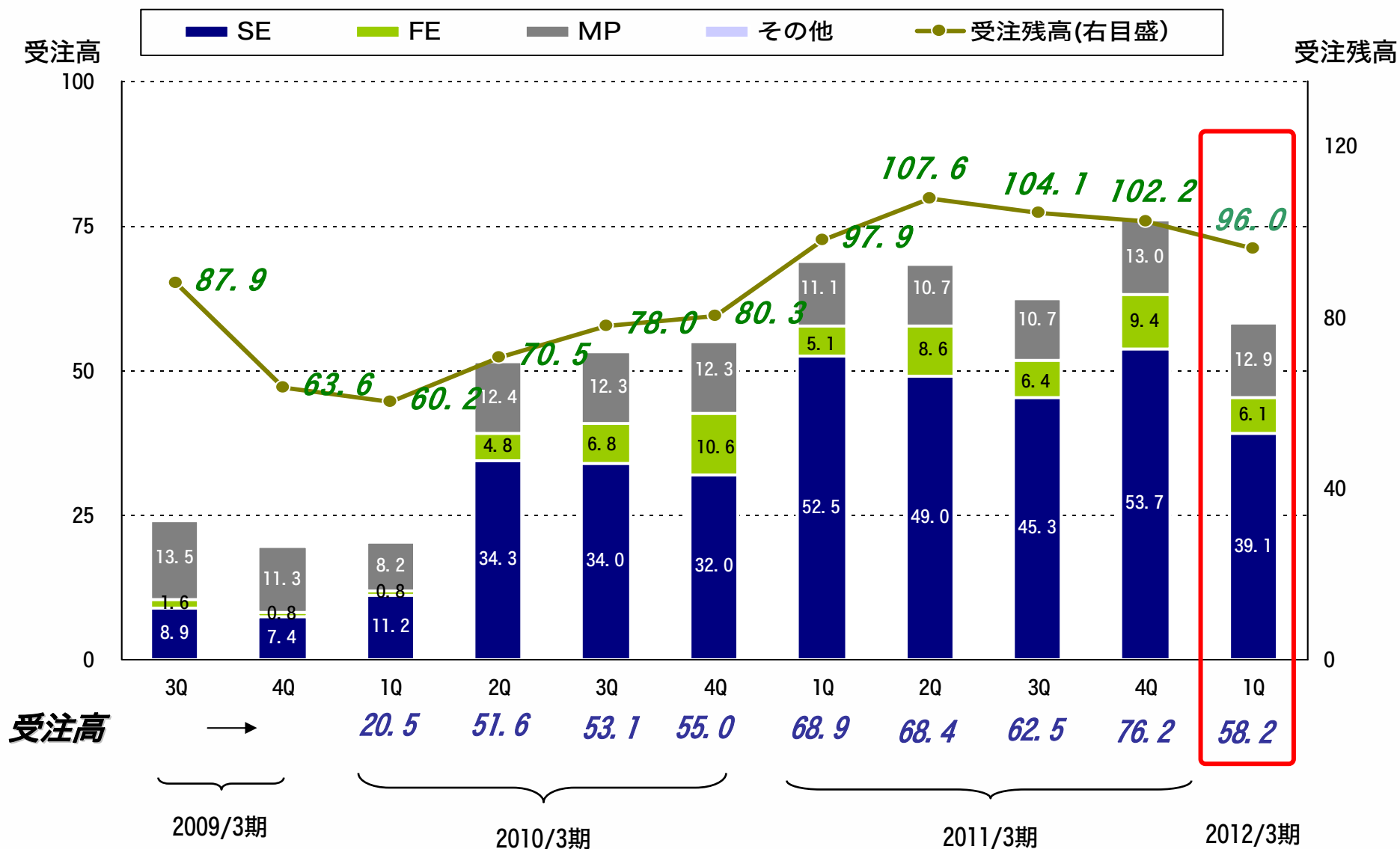
セグメント	1Q 実績	前期4Q実績	差異	差異のポイント
SE	68	81	▲ 12	・ 売上減少なるも利益率確保。
FE	▲ 7	▲ 0	▲ 6	・ 売上減少により赤字拡大。
MP	2	2	▲ 0	・ 固定費抑制、プロダクトミックス改善で利益率向上。

売上高・営業利益 四半期推移 (連結)



(単位：十億円)

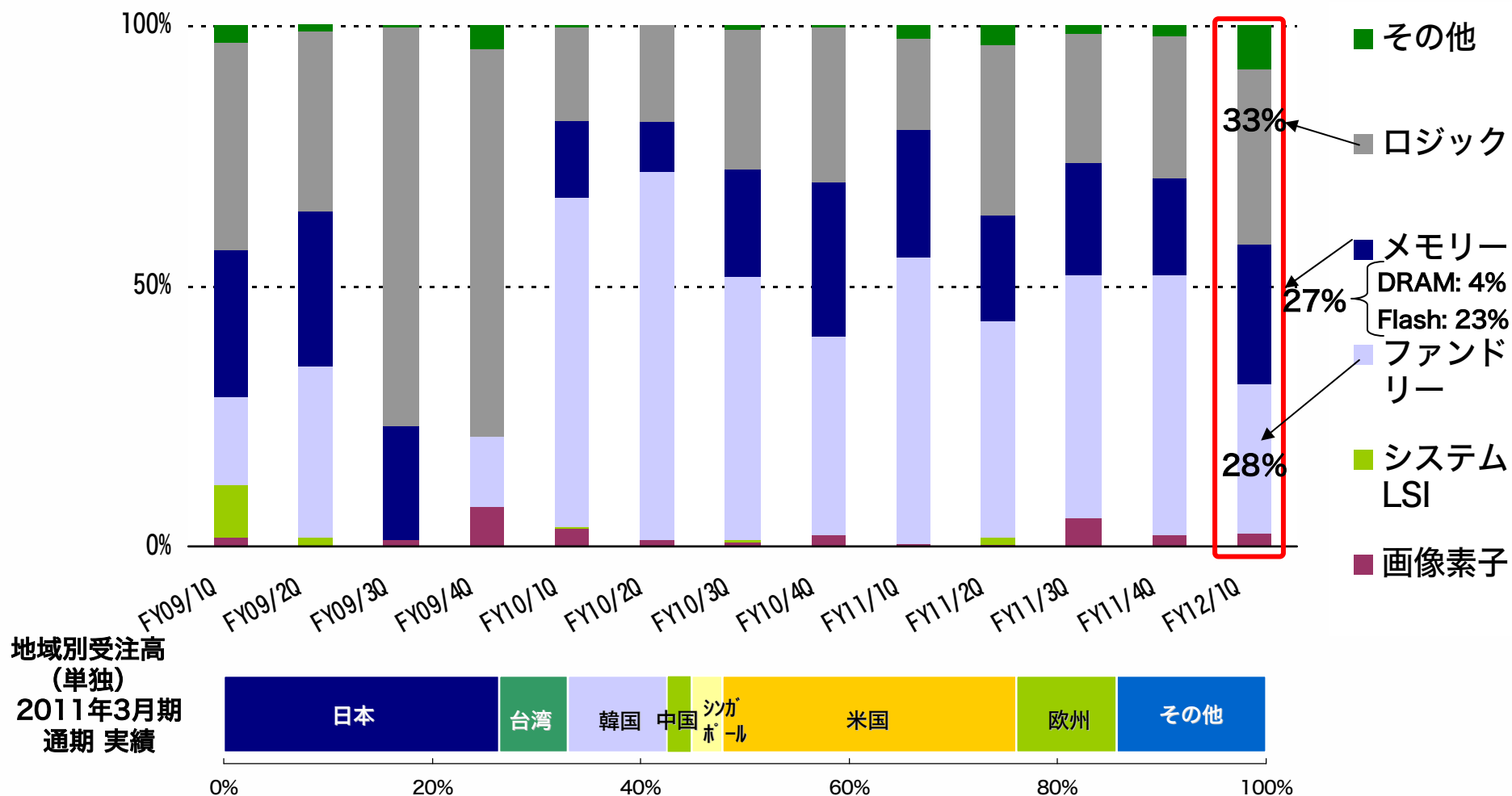
受注高・受注残高 四半期推移 (連結)



(単位：十億円)

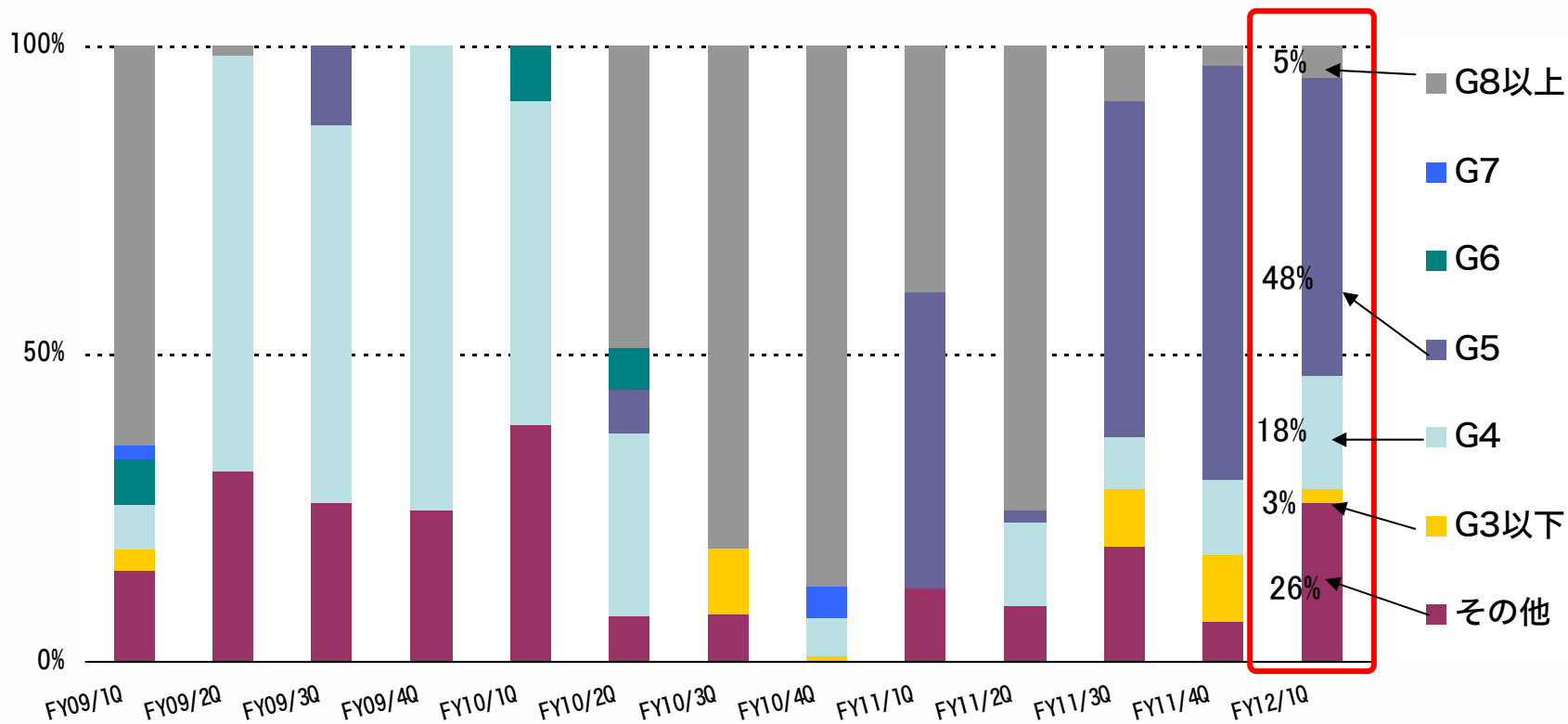
<SEセグメント> デバイス分類別受注比率 四半期推移 (単独)

➤ 1Q受注高 : 391 億円 (連結)



<FEセグメント> 世代別受注比率 四半期推移 (単独)

➤ 1Q受注高 : 61 億円 (連結)



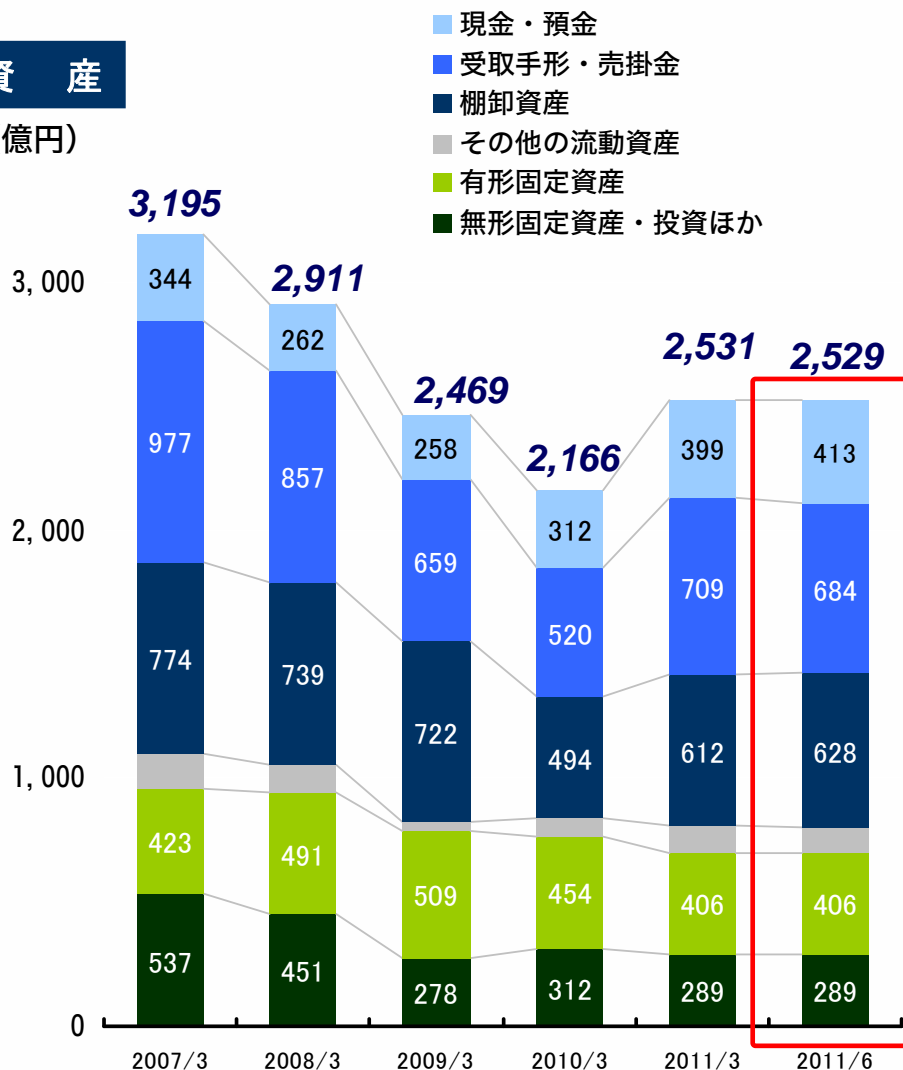
地域別受注高
(単独)
2012年3月期
1Q実績



貸借対照表（連結）

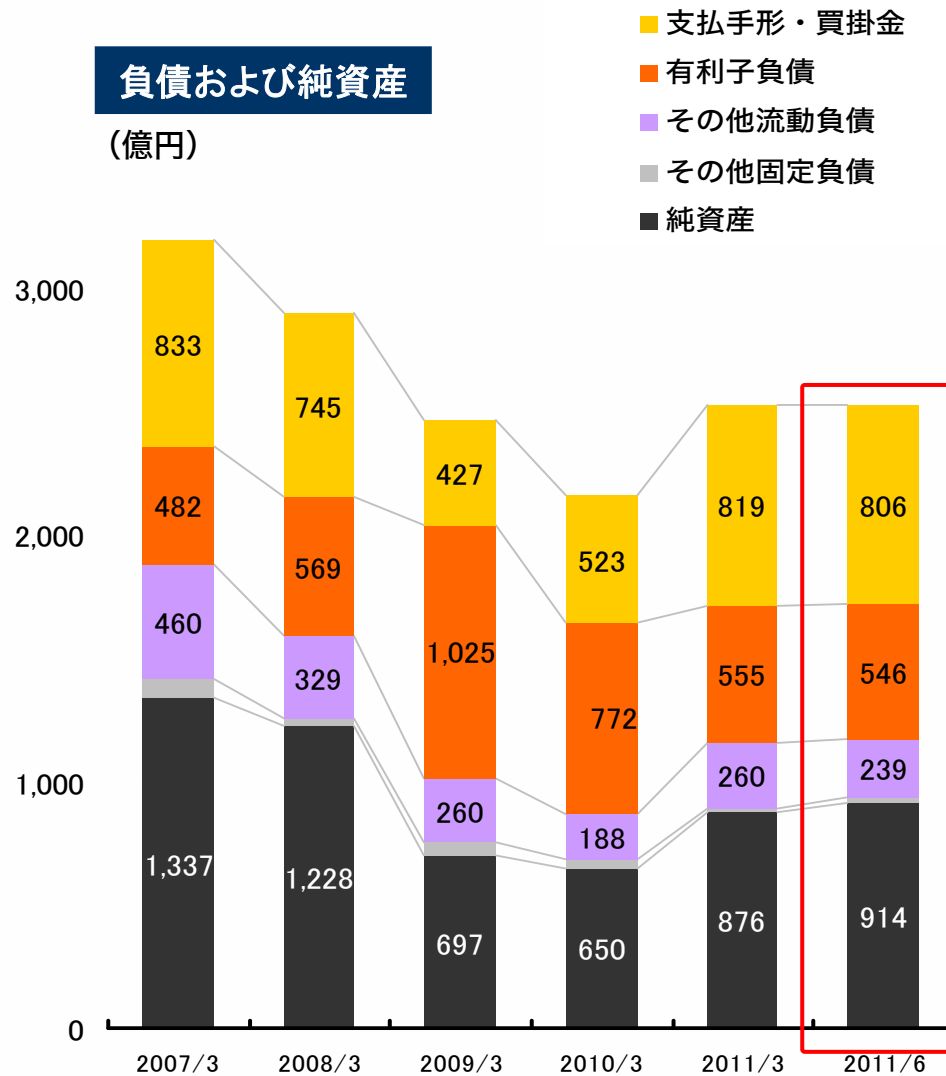
資産

(億円)



負債および純資産

(億円)

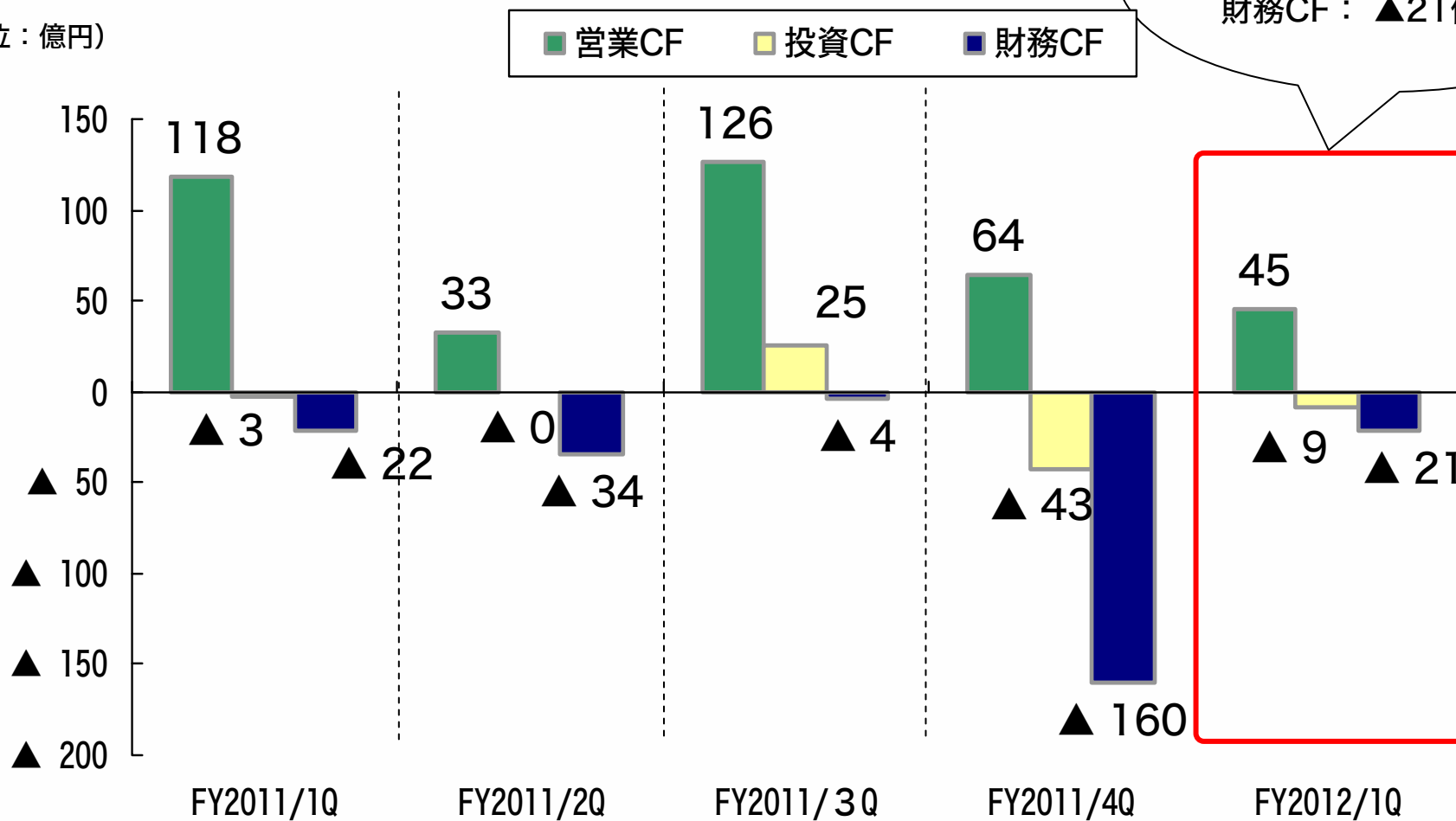


自己資本比率 34.4% (2011/3) → 36.0% (2011/6)

キャッシュ・フロー (連結)

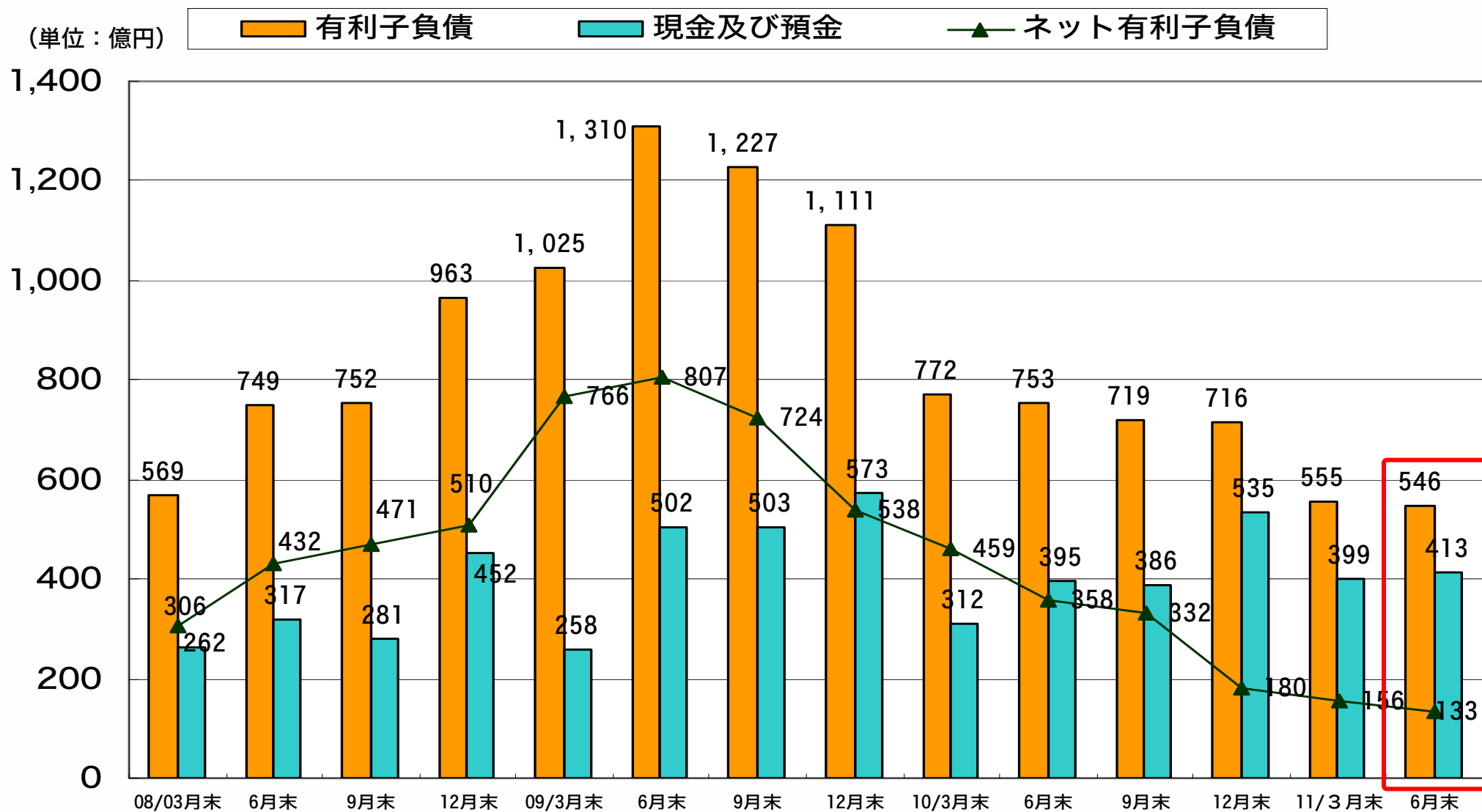
1Q フリーキャッシュ・フロー：35億円

(単位：億円)



営業CF：45億円
 投資CF：▲9億円
 財務CF：▲21億円

有利子負債推移(連結)



※2008年3月末有利子負債にはリース債務を含んでおりません。

事業関連

SE

1Q総括

- ・半導体市況の停滞により、ファンドリー、メモリーメーカーなどが設備投資計画を見直し
- ・売上は、一部にスライドはあったものの、高水準を維持
- ・受注は、期初想定の下限
- ・枚葉式洗浄装置SU-3200のプロセス評価が進み高評価を得る
- ・コーターデベロッパーに関しては競争激化

2Q以降の展望

- ・ロジックは堅調
- ・一部NANDメーカーを除き、メモリーは価格下落のため量産投資低調
- ・ファンドリーは在庫調整のため、2Q（7月～9月）は投資に対して様子見を継続
- ・各社は微細化に向けたR&D投資は継続
- ・投資が活発な画像素子、パワーデバイスへ販売注力
- ・研究開発投資は継続するものの、経費削減、コスト削減は一層強化

FE

1Q総括

- ・ 中小型向け低温ポリシリコン（LTPS）投資は引き続き堅調
- ・ TV向けの大型基板用装置の投資は低調。受注済の中国での投資が中心
- ・ OLED向けノズルプリンティング装置は評価用装置の受注獲得

2Q以降の展望

- ・ 液晶装置分野での収益性改善
（中国調達促進、VE活動などによる変動費削減および固定費抑制）
- ・ OLED用ノズルプリンティング装置のパイロットライン受注活動継続
- ・ 保有技術の応用展開できる成長分野への注力は継続
（太陽電池関連機器、リチウムイオン電池製造装置）

MP

1Q総括

【MT】

- ・ 固定費抑制およびプロダクトミックス改善により営業黒字確保
- ・ 日米欧では、経済停滞により印刷機器の投資回復が足踏み状態
- ・ 中国、インドなど新興国でCTPの出荷台数は堅調に推移
- ・ PODは、日欧米以外でも市場拡大基調。商業印刷以外の分野で大型商談を受注

【PE】

- ・ 検査機器は、アジアでの受注増加
- ・ 高精細PCB用に直接描画装置も引き合い増加

2Q以降の展望

【MT】

- ・ 8月に中国CTP生産工場の増床工事完成。下期より本格稼動し新興国の需要に対応
- ・ PODは、大型商談の確定により、引き続き堅調に推移
- ・ 新興国での商談増加ならびに円高傾向が続くと見込まれ、さらなるコストダウンに注力

【PE】

- ・ PCB用直接描画装置において高生産機を投入予定
- ・ 台湾、中国顧客中心に重点的に販促

連結業績予想

2012年3月期 連結業績予想

想定為替レート: 1\$=80yen, 1€=110yen

(単位: 億円)

(単位: 億円)	2012年3月期								2011年 3月期						
	上期				下期				通期						
	5/10予想		今回予想		5/10予想		今回予想		5/10予想		上期: 今回予想		実績		
売上高	1,380		1,320		1,420		5/10予想 見直さず		2,800		2,740		2,549		
SE	990		935		920				1,910		1,855		1,742		
FE	155		137		255				410		392		327		
MP	MT	232	201	245	214	241			209	473	410	486	423	473	404
	PE		31		31				32				63		
その他(外部売上のみ)	3		3		4				7		7		6		
営業利益	125		105		135				260		240		268		
経常利益	120		100		130				250		230		265		
当期純利益	110		90		120		230		210		256				

今回、下期業績予想は見直さず、5/10発表予想を据え置き。
通期予想は、上期修正のみを反映

SEは半導体機器事業、FEはFPD機器事業、MPはメディアアンドプレジジョンテクノロジー事業を示す。

事業関連

<SEセグメント>

- ・ デバイスメーカーの設備投資動向に変化
- ・ 受注回復時期を期初時点比1Q~2Q遅れを想定するも、不透明

<FEセグメント>

- ・ TV用大型基板の投資は低調だが、LTPS向けは堅調継続

<MPセグメント>

- ・ PODは大型受注が牽引し、堅調に推移
- ・ CTPは新興国市場向けにさらなるコストダウンを推進

経営課題

- ・ 既存製品群における変動費率改善
- ・ 製品競争力の強化による 利益率向上
- ・ 中期3カ年経営計画の推進
(新規分野への投資継続)